



ホテルニューグランド 本館の象徴である大階段

#### DATA

名 称 ホテルニューグランド 本館  
所在地 神奈川県横浜市中区山下町  
10 番地  
完 成 昭和 2 年  
設計者 渡辺 仁

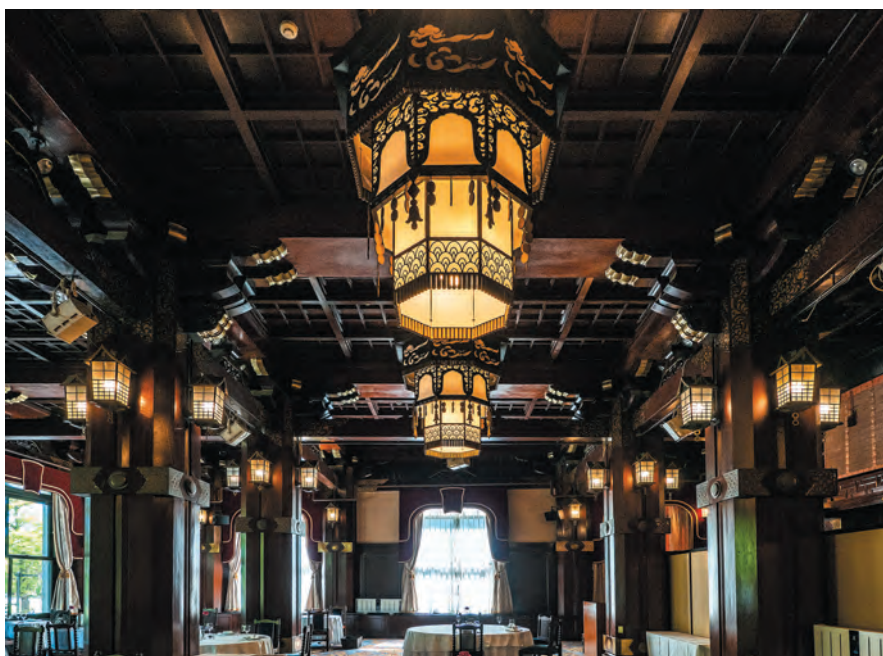
温故

知新

第 17 回

レトロ建築を歩く

## ホテルニューグランド 本館



階段の手すりには“おもてなし”を表現するフルーツバスケットを模したオブジェ

開業時はメインダイニングとされていた「フェニックスルーム」





階段上のロビーは、東側は大谷石と漆喰で飾られ、西側はマホガニーがふんだんに使われた重厚な空間が広がる

日本最初の開港地のひとつ、横浜。安政6年（1859年）の開港以来、外国人の居留地がおかれ、貿易の中心地として発展した。明治から大正にかけて、多くの外国人向けのホテルが開業。賑わいを見せていたが、大正12年（1923年）の関東大震災で軒並み倒壊、焼失してしまった。

横浜市は、国際的な港湾都市の復興と繁栄のために、市の事業としてホテルの建築計画を決定。大正15年から、震災復興のシンボルとして、ホテルニューグランドの建設が始まる。設計は、銀座の服部時計店（現セイコーハウス銀座）で知られる渡辺仁が担当。渡辺は、洋風建築の内側に東洋的な手法を織り交ぜ、来訪者に日本を印象付けようと設計したという。完成したのは昭和2年（1927年）である。

ホテルのエントランスを入ると、2階ロビーへと続く美しい大階段が客を迎える。横浜の海を思わせる色鮮やかな「ニューグランドブルー」の絨毯が敷かれ、手すりには1枚ごとに色合いの違うイタリア製の釉薬タイルが貼りつけられた大階段は、ホテルの象徴といわれる。

大階段の上には、ロビーが広がっている。大階段を境に、東側は大谷



現在のホテルニューグランド全景

石と漆喰で、西側はマホガニーの柱で重厚な空間がつくられている。漆喰飾りや照明など、随所に日本、東洋の意匠が散りばめられている。

開業当時はメインダイニングとされていたフエニックスルームには、日本の神社仏閣などによく使われる「格天井」の様式が取り入れられている。独特の形状の照明は、日本風であると同時に、どこか異空間のような印象を与える。現在、フエニックスルームは宴会場として使用されるが、不定期でオープンする「幻のレストラン」としても、人気を博している。当ホテルが発祥というスパゲッティナポリタンなども、当時と変わらない味で提供される。